

新

3年生、学年キウストががんばってね。

令和元年度 愛知教育大学附属岡崎中学校 読書だより

冬に食べる「雪見だいふく」
って、なんだかいいですね。

モリモリ書店

第60話 R02.01.16(木)

「どう立ち上がるかが、
いちばん大事。」

★今回、紹介する本は、『翼がなくても』（著/中山七里、出版/双葉文庫）です。

「パラスポーツ」×「ミステリ」という不思議な組み合わせを絶妙なバランスで成り立たせながら、熱く切ない物語になっている1冊。

主人公の沙良は、陸上でオリンピックを狙うアスリート。しかし、隣に住む幼なじみで今は引きこもりの男の運転する車の事故に巻き込まれ、左足を切断することになった。

沙良は夢を失い、もがき苦しむ中、幼なじみが何者かによって殺されてしまう。いったい、だれが殺したのか。その一方で、沙良は、パラ陸上に出会い、新しい夢を追いかける一。



中山七里も、いかに読みやすい本を書いているか、と云うことがよくわかる。

一人の女性が挫折から立ち上がる姿を描きながら、ミステリとしてのドキドキもあります。しかも、今、ドラマもやっている弁護士・御子柴礼二も登場し、予測のつかない展開に。現実と向き合いながら夢を追う主人公の姿に胸が熱くなります。ぜひ。

僕はあなたが
してきたことよりも、
これからすることに
価値があると考えている。

はたして、あなたは
それ、沙良は
復讐してやるのか？

(p.242)

HOPE。

希望はある、
ただ見えなかつた
だけだ。

「ミステリ」と「スポーツ」が
同時に進んでいて感じない
って、むしろいいですね。

(p.90)